

当院では、2023年9月、12月に血管撮影装置ARTIS icono D-Spinを導入しました。血管撮影装置とはどのような装置なのか、新しく備った機能はどういったものなのか、当院の血管撮影室の様子とあわせてご紹介いたします。



検査室



操作室

### 血管撮影装置とは

血管撮影装置は、造影剤という薬を注入しながら目的の部位にX線を照射することで、血管の様子をリアルタイムに映し出すことができます。血管撮影装置を使用するカテーテル検査は、心臓や脳、腹部領域といった血管の病気が増加する中で普及が進んでいます。カテーテル検査とは、カテーテルという細い管を手首や肘、足の付け根などの血管から入れて、目的とする場所まで進めていき、造影剤を流し、放射線を使って造影剤が流れているところを撮影する検査のことです。血管撮影装置はカテーテル検査を支える装置として、重要な役割を果たしています。

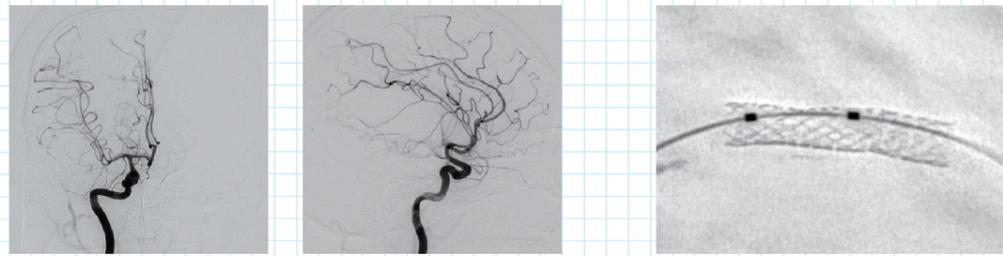
### 当院の血管撮影室

当院では血管撮影装置を4台保有しています(2018年導入の Artis Pheno (ハイブリッド手術室)、2020年導入の Alphenix NFX-8000V、2023年9月・12月に導入の ARTIS icono D-Spin)。また、心臓カテーテル検査は月に平均130件程度、腹部アングイオは30件程度、脳アングイオは15件程度の検査・治療を行っています。血管撮影室では医師、看護師、臨床工学技士、診療放射線技師がコミュニケーションを図り、それぞれが持つ専門的な知識や技術を駆使して患者さんに質の高い医療を提供しております。



ARTIS icono D-Spin  
血管撮影装置

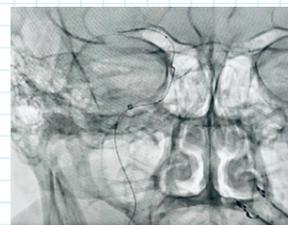
### ARTIS icono D-Spin で撮影した画像



### ARTIS icono D-Spin の特徴

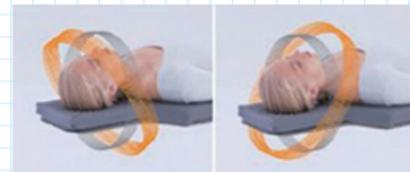
#### 01 Live 2K Imaging

大画面表示のさらなる高精細画像を実現するため、透視・撮影ともに2Kイメージングに対応しています。検出器の持つ性能を十分に生かした高分解能画像が実現可能になり、見えやすくなりました。



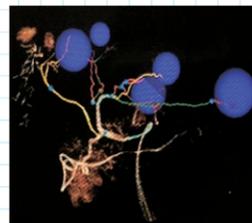
#### 02 syngo DynaCT Sine Spin

従来の三次元回転撮影は、一定軌道回転のみだったため、十分な画像が得られないことがありました。ARTIS icono D-Spin は回転撮影中に頭尾方向の傾斜を加えた軌道回転により、骨の近くの出血などの描出能も向上し、今までより見えやすくなりました。



#### 03 syngo Embolization Guidance

手術を支援するナビゲーション機能です。三次元データから、腫瘍を指定するだけの簡単な操作で、血管を自動検出します。複雑で微細な血管の選別から治療時のナビゲーションまでサポートすることが可能です。



### おわりに

今回導入したARTIS icono D-Spinには多くの機能が追加され、検査が必要とされる、スピード、精度、画質、操作性が向上し、よりスムーズで質の高い検査・治療を患者さんに提供することが可能となりました。診療放射線技術科としても新たな技術に対応し装置を最大限に生かしていきたいよう日々努力していきたいと思っております。

診療放射線技術科  
特殊撮影二課

山崎 稜大

やまざき たかひろ